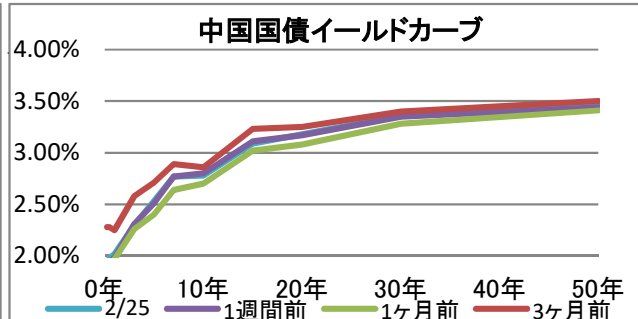
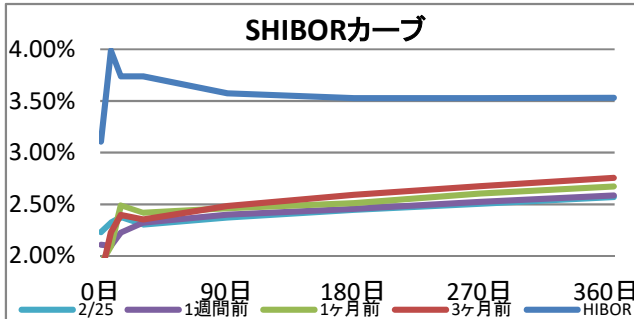


①市場概況

基準レート		2022/2/25	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.3346	+0.0003
	JPY/CNY	5.4835	-0.0311
SHIBOR	3M	2.3740%	-0.0260%
国債利回り	10年	2.78%	-0.02%
上海総合指数		3,451.41	-39.35



(1) 概況

国際金融市場では、ロシアのウクライナ侵攻前までは株式市場が大きく売り込まれるリスクオフとなっていたものの、侵攻後は国際社会の反ロシアの結束が確認され、停戦への期待の高まりや米国経済指標の改善から買い戻しが入って週末を迎えている。この間、主要国の債券市場、外為市場ともに変動は限定的だった。

中国金融市場では、全人代を前に政府各方面から不動産市場支援を含む景気支援姿勢が示されて景気回復期待が高まる一方、ウクライナ情勢悪化や中国政府の国有企業への一部ハイテク企業の取引調査要求によるハイテク企業への規制強化懸念から大きく下落したが、欧米株式市場の回復を受けて安値から若干戻して週末を迎えている。債券市場では利率債の中長期利回りが低下した以外は概ね上昇している。外為市場では人民元が2018年来の高値となっており、新たなリスク回避資産との見方が出るほどに強さが目立っている。

中国では、北京五輪成功における習主席の指導力を称賛するとともに、発展改革委員会が工業経済安定支援、財務部が減税等の財政支援、中国人民銀行上海総部や住建部が不動産市場安定化、商務部が輸出支援等を表明しており、今秋の共産党大会に向けた準備が着々と進んでいる印象。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日500億元に対し、新規リバースオペ8,100億元を実施し、2年来の高水準となる7,600億元を供給している。

(3) 主な経済指標

特になし。

②資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	2.2310%	1.8000%	2.5500%	
1W	2.3220%	2.8500%	2.5000%	2.2000%
2W	2.3750%	2.4000%	2.4000%	2.2000%
1M	2.3060%	2.7500%	2.5700%	2.2000%
3M	2.3740%	2.8800%	3.0000%	2.3500%
6M	2.4480%	3.1000%		2.4000%
9M	2.5070%	3.3500%	2.5000%	2.4800%
12M	2.5700%	3.0500%		2.5500%

1月に小幅引き下げされたLPRは2月は変更なく、足元金利が高止まりする中、月末と全人代を控えて多額の市場需給が実施され、安定を重視した調整が行われているとの印象。資金市場では足元金利が2%台で推移し、ターム物の出合いは1ヶ月が2.4%前後に上昇している以外は限定的ながら、SHIBORのターム物金利は引き続き低下を続け、3ヶ月が2.3%後半まで、1年が2.57%に低下している。

NCDは、活発な取引が続いており、ターム物の金利水準はやや上昇して、1ヶ月が2.20%前後、3ヶ月物は2.30%～2.35%、6ヶ月が2.40%前後、1年が2.50%～2.55%で取引されている。

(2) 米ドル資金 (本土内)

	BID	OFFER
ON	0.10%	0.02%
1W	0.05%	0.06%
1M	0.10%	0.12%
3M	0.30%	0.40%
6M	0.60%	0.70%
12M	0.70%	0.75%

ウクライナ情勢悪化により米国の金融引き締めペースが緩やかなものになるのではないかと期待や資金流入から金利水準の上昇は小幅に止まっている。ターム物の金利水準は、1ヶ月が0.10%、3ヶ月は0.40%、6ヶ月は0.65%をそれぞれ挟んだ取引が続いているが、出合いは限定的。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.93%	1.95%	2.32%	2.42%	2.65%
6M	1.98%	2.01%	2.41%	2.46%	2.71%
1Y	2.02%	2.11%	2.53%	2.52%	2.77%
3Y	2.30%	2.57%	2.79%	2.92%	3.51%
5Y	2.53%	2.80%	3.23%	3.35%	4.20%
10Y	2.78%	3.12%	3.59%	3.77%	4.65%

債券市場では、週初にLPRは据え置かれたものの一部地域で住宅ローン金利が引き下げられたことから不動産市況回復期待が高まり、利回りは上昇に転じたが、ウクライナ情勢悪化によるリスクオフに加え、米利上げペースの鈍化期待から利回りは低下に転じ、10年国債利回りは2.78%（前週比-0.02%）に低下した。

イールドカーブは、短期債利回りが総じて上昇する中、中長期では利率債の利回りが低下に転じる一方で信用債は上昇が続いたことから、利率債ではフラットニングする一方、信用債はカーブ形状に変化なく上昇にシフトしている。これによりクレジットスプレッドは中長期で拡大に転じている。

④先物為替市場

	USD / CNY
1W	45.5 / 47.0
1M	130.5 / 132.0
3M	358.0 / 361.0
6M	620.0 / 624.9
9M	840.0 / 845.0
12M	1030.0 / 1035.0

対ドル基準レートは6.3346と前週末比+3pipsのドル高元安、対円基準レートは5.4835と同-311pipsの円安元高と対ドルではほぼ前週末と同水準ながら、市場では2018年来となる6.31台まで元高が進んでいる。ウクライナ情勢の悪化による米利上げペースの鈍化期待と国内企業の国内回金の動きが重なって元高傾向が強まったことから、人民元が新たなリスク回避資産との見方も聞かれる状況となっている。

先物は、米ドル金利水準の上昇懸念の緩和や国外からの投資資金の流入により、1年物は1,000台後半に拡大している。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.13%		2.00%
6M	2.17%	2.41%	2.01%
9M	2.18%	2.43%	2.04%
1Y	2.19%	2.48%	2.06%
3Y	2.36%	2.74%	2.33%
5Y	2.56%	2.99%	
7Y	2.71%	3.16%	
10Y	2.86%	3.32%	

スワップ金利は、短期の基準金利、中長期債券利回りともに上昇したことから上昇している。債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドは中長期債利回りが低下したことから中長期では小幅な拡大に転じている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入